



地域研究集会

第50回北洋研究シンポジウム  
-北海道周辺における高次捕食者による捕食特性と相互作用-

日時：2021年3月13日（土）10:00-17:00

会場：オンライン開催

コンピナー：綿貫 豊・山村織生・高津哲也（北大院水）

挨拶：山下 洋（一般社団法人水産海洋学会長） 10:00-10:10

趣旨説明：綿貫 豊（北大院水） 10:10-10:20

座長：綿貫 豊（北大院水）

- 北海道周辺におけるミンククジラの捕食特性と摂餌量 10:20-11:00  
田村 力・小西健志（日鯨研）・吉田英可・木白俊哉（水産機構・資源研）・磯田辰也（日鯨研）・加藤秀弘（東京海洋大）
- 長期研究による冬季の根室海峡に来遊するトドの食性とその変化 11:00-11:40  
後藤陽子（稚内水試）
- 北海道周辺の繁殖期における海鳥の餌と捕食量 11:40-12:20  
大門純平・綿貫 豊（北大院水）

昼休み 12:20-13:00

座長：高津哲也（北大院水）

- 北海道太平洋におけるマダラ食性の経年変化 13:00-13:40  
王 栄夫（北大院水）・千村昌之（水産機構・資源研）・山村織生（北大院水）
- 噴火湾の底生魚類が捕食するスケトウダラ稚魚の特徴 13:40-14:20  
高津哲也・納谷晃弘・柳澤和彦・中屋光裕（北大院水）
- クロマグロの摂餌生態 14:20-15:00  
平岡優子・下瀬 環・藤岡 紘（水産機構・資源研）・渡辺秀洋（鳥取水試）・田中庸介・大下誠二（水産機構・資源研）

休憩 15:00-15:10

座長：山村織生（北大院水）

- 外洋性サメ類の食性～北西太平洋におけるヨシキリザメの例～ 15:10-15:50  
藤波裕樹（水産機構・資源研）・中東明佳（人間環境大学）・大下誠二（水産機構・資源研）
- スルメイカの摂餌・成長と海洋生態系鍵種としての位置づけ 15:50-16:30  
桜井泰憲（函館頭足研）・内川和久（水産機構・資源研）

【総合討論】

座長：山村織生（北大院水）

技術的な問題と漁業の潜在的影響 16:30-17:00

**開催趣旨：**海洋生態系の主要な捕食者グループ（海生哺乳類，海鳥，魚類，漁業）は相互に関係しあいながら，食物連鎖を通じて餌生物に強いトップダウン効果を与える場合がある。こうした相互作用とトップダウン効果の理解は，海洋生態学の重要な研究課題の一つであり，また，生態系アプローチによる水産資源管理にも欠かせない。北海道においては，これまで鰹脚類による地域的な食害としての捕食量が算出されたことはあったが，高次捕食者の生態系における役割といった広い視点からの分析は不十分であった。この地域集会では，これらの4大捕食者グループが食物連鎖においてどういった役割を果たしているのかについての理解を深めることを目的とする。そのため，餌の種類の変化，捕食量の推定，漁獲量との関係などの観点から，海生哺乳類，海鳥，魚類の食性や捕食量について，各地域の結果とこれまでの研究のレビューに関する発表をいただき，総合討論では，技術的課題を明確にするとともに，漁獲量を参照しながら北海道周辺海域における高次捕食者の特徴を明らかにする。